

公表

## 事業所における自己評価総括表(児発)

○事業所名	StepUP蒔田通町教室		
○保護者評価実施期間	2025年10月1日		～ 2025年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2025年10月1日		～ 2025年11月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月25日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	本年1月より未就学児向けの利用枠を新たに設け、1時間のトレーニング時間を開始した。環境への安心感を高めることを目的に、教室に慣れる関わりを大切にしながら、個別や少人数での活動を中心に実施し、その後の集団療育へ無理なく移行できるよう支援体制を整えている。	前半は職員との関係づくりや環境への安心感を育む時間として、興味のある遊びを取り入れた自由活動を設定している。後半は活動の切り替えを意識し、机上課題や身体活動、制作などの課題に取り組む構成とすることで、集団参加に必要な集中力や行動の切り替え力の育成を図っている。	自由活動から課題活動への移行が円滑に行えるよう視覚支援やタイマーを活用し、見通しを持てる環境づくりを進めている。また、個々の興味や発達段階に応じて課題内容を調整し、成功体験を積み重ねられる関わりを意識することで、安心して集団活動へ参加できる力の向上を目指していく。
2	SSTを基盤とした集団療育の中で運動活動を取り入れ、さまざまな身体機能の向上を図っている。内容は固定化せず変化を持たせることで、楽しみながら継続して参加できる環境を整えている。また安全面にも十分配慮した運営を行い、これまで重大な事故や大きな怪我なく活動を継続できている点も強みである。	活動が単調にならないよう職員間で意見交換を行い、子どもの年齢や特性を踏まえて内容を検討している。マットの色分けやイラスト提示などの視覚的手がかりを活用するとともに、集団の中でも必要に応じて個別で関わる時間を設け、一人ひとりの理解度やペースに合わせた支援を心掛けている。	活動後の振り返りを職員間で共有し、安全面や支援方法の改善点を継続的に見直していく。また、ヒヤリハットの記録や研修を通して危険予測の視点を高めるとともに、児童の発達や興味に応じた教材・環境設定を充実させ、より安心して挑戦できる運動療育の実現を目指していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園といった近隣施設との連携が十分とは言えず、地域の子どもたちと関わる機会が限られている状況にある。そのため事業所以外の集団の中で経験を積む場が少なく、地域社会とのつながりを広げる取り組みが今後の課題となっている。	平日は放課後の限られた時間内で療育プログラムを実施し、土曜日や長期休暇中も計画された運動やコミュニケーション活動を中心に運営している。そのため日々の支援時間が充実する一方で、地域の子どもたちとの交流機会を確保する余裕が生まれにくいことが要因となっている。	既存の療育時間を大きく変えない範囲で、行事や余暇活動の一部に地域交流の要素を取り入れる工夫を行っていく。また近隣施設へ情報発信や声掛けを行い、短時間でも合同活動が実施できる機会を模索することで、無理のない形で地域との関係づくりを段階的に進めていく。
2	専門資格や特定分野に精通した職員の配置が十分とは言えず、支援の幅や深まりに課題が残っている状況にある。多様なニーズに対応する上で専門的視点を取り入れる機会が限られる場面もあり、職員一人ひとりの知識や技術の向上と体制強化が今後の課題となっている。	人材確保が難しい地域状況や採用条件との兼ね合いにより、専門資格を有する人材の採用が容易ではないことが要因として挙げられる。また日々の療育運営を優先する中で、外部研修への参加や資格取得に向けた学習時間の確保が十分に取れていない点も影響している。	外部研修やオンライン講座への参加を促進し、職員が専門知識を学べる機会を計画的に確保していく。また事例検討や勉強会を定期的に行い、学んだ内容を共有することで事業所全体の支援力向上を図るとともに、資格取得を後押しする体制づくりにも取り組んでいく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果(児発)

事業所名 StepUP蒔田通町教室

公表日 2026年3月15日

利用児童数 3人

回収数 1人

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1	0	0	0	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	0	1	0	0	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1	0	0	0	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1	0	0	0	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1	0	0	0	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1	0	0	0	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1	0	0	0	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1	0	0	0	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1	0	0	0	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1	0	0	0	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	0	0	0	1	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1	0	0	0	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1	0	0	0	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	0	0	0	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	1	0	0	0	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1	0	0	0	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1	0	0	0	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	1	0	0	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1	0	0	0	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1	0	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1	0	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1	0	0	0		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1	0	0	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	1	0	0	0		

	公表	事業所における自己評価結果(児発)
--	----	-------------------

事業所名	StepUP時田通町教室				公表日	2026年 3月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	イベントなど場合によっては狭いと感じることもあるが、基本的には少数人数で受け入れている為スペースを確保できている。	クールダウンスペース確保が難しいことがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	管理者、児発管で二重チェックをしている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	3		掲示物等が多く、注意散漫になってしまう可能性があるため、検討していきたい。環境構造化やバリアフリー配慮が不十分で理解や移動に課題。表示や動線整備で改善が必要。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	入室してからまず手洗いから必ず行うことを徹底している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	痲痺などを起こした際に落ち着くために、可能な限り同性職員と個室に入れるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0	業務改善のために全体会議にて支援の方向性や、保護者様からの意見について話し合いを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	評価結果は速やかに全体会議で共有し、意見や要望を整理した上で改善策を検討・実行する体制を整えている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	月に一回、職員会議の場で必ず意見をいう機会を設けている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	6		外部評価を実施しておらず客観的改善が進まない。結果を分析し業務改善に反映する体制が必要。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	月に1度様々な内容の研修を受けており、非常勤職員など参加できない職員にも後日伝達研修として研修を行っている。その他の研修も同様に対応している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	管理者、児発管を中心にその他の職員も含めて支援プログラムを作成し公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	半年に一回アセスメントシートとして保護者様にニーズや課題を記入していただき、それを基に保護者様と面談を行っている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	毎月、児童の支援会議を必ず行っている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	支援計画書を別紙で準備し、非常勤職員もいつでも見れるようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	4	標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントはあまり行っていない。	客観的評価が不足し支援根拠が弱い。標準化ツールと行動観察を併用し適応行動を把握する必要がある。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	4	ガイドラインはいつでもすぐに見られるようにしており、保護者様に説明しながら本人支援や家族支援等を設定している。	支援項目はあるが内容が具体化されていない。目標や方法を明確化し実践に結び付ける必要がある。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	困った時は相談、共有をしその日の最善の案を職員で考えている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	運動トレーニングは未就学児の出来る事を考慮しながら毎日、毎時間異なるトレーニングを常勤職員みんなで回しながら提供している。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	強制的にトレーニングに参加させることなく、自発性を促している為職員をマンツーマンで付けて、個別支援も行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	常勤職員、非常勤職員みんなで必ず今日の活動の打ち合わせや、気を付ける事など共有を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	個別支援計画書の目標に基づきながら、日々欠かさず支援の記録をとっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	毎月、児童の支援会議をできるだけ多くの職員で開催し見直し等々の意見を話し合っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	ケース会議など必要に応じて児発管が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	5		主治医や関係機関との連絡体制が十分に整っておらず、情報共有や支援方針の統一が図りにくい状況にある。今後は相談・連携の機会を設け、継続的に情報交換できる体制づくりを進める必要がある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	4		併行利用先との情報共有が十分でないため、支援方法の不一致や児童の戸惑いにつながる可能性がある。関係機関との連絡機会を増やし、支援内容や目標を共有することで相互理解を深め、円滑な移行と一貫した支援体制の構築が求められる。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2		就学先との情報連携が不足し支援の継続性に課題がある。引継ぎや面談機会を設け相互理解を深める必要がある。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	6	常勤職員は中部療育センターの見学会や研修に毎年職員を代えながら参加している。また、その後には伝達研修を全職員参加の会議時に報告している。	常勤職員に限らず、非常勤職員も機会があれば積極的に参加していきたい。専門的助言を得る機会が少なく支援の質向上に課題。センターと連携し助言体制を整える必要。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	7		必要としない方が多いが、地域交流が乏しく社会経験が広がらない。園行事参加や合同活動を計画し交流機会を増やす必要。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	送迎時に本日の児童の様子等を必ずお伝えし、加えて毎週1回週次日報として児童の様子が書いているものを書面で配布している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2		他施設とも連絡を連携しながら、イベント等企画しながら家族支援プログラムを進めていきたい。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時にご来所していただき、必ず対面で約1時間程度時間をとって丁寧に説明をしている。また、変更時も書面を作成し説明をしている。	職員に対しても細かく利用者負担等を説明している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	保護者様との面談時に「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、同意をえている。保護者様のご要望でその場で異なる支援内容に変更することもある。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	支援時間以外にお電話やメール等で保護者様の悩み事などをいただき、アドバイスや解決法などを提示しながらご家族様と共に支援を進めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	7		保護者会等を希望しない方が多いが、家族参加型のイベントを多く企画し、ご家族同士の交流できる場を検討していきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	クレーム対応の研修を行い、適切な対応に努めている。困った際は、職員で共有し相談し迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	毎日ブログの更新、毎月通信の配布を行っている。また、イベントチラシを都度配布し、教室内と教室外に掲示をしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	研修を行い、ブログなど顔出しのチェックなどは、職員2.3人で行っている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	イラストカードを用いている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	7		地域との接点が少なく理解促進に課題。行事公開や交流会開催で開かれた運営を進める必要。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	各マニュアル等はいつでも見ることのできる場所に置いてある。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	4	年に2回児童と職員が一緒に行う避難訓練を実施し、別でビル一体となって職員のための避難訓練、避難器具の使い方など定期的に行っている。	職員みんなでBCP作成の話し合いを行い、都度見直しを行っていきたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	現在対象の児童はいないが、半年に一度新しく受診したかなどを、紙面と口頭でお聞きしている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	4	アレルギーがある児童はおやつなど含め、持ち帰り対応にし、保護者様に説明をしている。	必要に応じて、保護者様と連絡をとり医者との連携も検討していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1		安全計画を都度職員で見直し、より良いものを提供していきたい。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	他事業所で起こったヒヤリハットも紙面でまとめ、サイン欄を設けて全員が確認したことがひと目でわかるようにしている。また、全職員参加の会議で改めて振り返るようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	虐待防止会議を最低2カ月に1回は行い、議事録にまとめている。参加できていない非常勤職員には議事録を共有している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0	現在該当者がいないが、身体拘束等の研修や話し合いは行っている。		